

# 活動成果報告書

平成28年度(第20回)「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

久留米市の自殺対策「かかりつけ医・精神科医連携システム」

応募グループ名称及び氏名(グループの場合は代表者名)

久留米市保健所 保健予防課 精神保健チーム

代表者: 山口 はるか

勤務先: 久留米市保健所

所属: 保健予防課 精神保健チーム

所在地: 〒830-0022

福岡県久留米市城南町15-5

久留米商工会館4階

TEL: 0942-30-9728

FAX: 0942-30-9833



(研修会の様子)



(検討会の様子)

## ◇活動方針

自殺対策では、うつ病等の精神疾患の早期発見・早期治療が重要となってくる。そこで、久留米市ではかかりつけ医療機関への啓発と、かかりつけ医と精神科医の顔の見える関係づくりを強化し、地域でのネットワークを構築することを目的に「かかりつけ医・精神科医の連携事業」に取り組んでいる。

## ◇活動内容とその成果

### <活動の背景>

平成10年に、全国で自殺者数が3万人を超え、国では、自殺対策基本法(平成18年)、自殺総合対策大綱(平成19年)を策定し、自殺対策を推進している。

久留米市でも、平成20年保健所設置以降、市民の健康と生命を守るため、「人材育成」「普及啓発」「ネットワークづくり」「自死遺族支援」を柱に自殺対策に取り組んでいる。警察庁などの報告では、自殺者の4割以上にうつ病の症状があり、患者の多くが、初めに内科を受診しているといわれている。そのため、本市において、かかりつけ医(内科医等)が、うつ病等に対する理解を深め、患者を早期に精神科医へ繋ぎ、的確な診療を行うことが、自殺者数の減少に繋がると考え、連携システムの構築を進めている。

平成22年から、保健所は、管内の4医師会や大学病院等の協力を得て、連携報告書様式を作成し、うつ病アプローチ研修会、およびその準備のための検討会を行い、企画調整の役割を担っている。

### <事業内容>

#### 1 検討会・研修会の開催

##### ①検討会

医師会等から、検討委員として精神科医のみならず、内科医も選出。

有意義な研修会に向けた企画立案や効果的な連携について意見交換を行う。(年9回)

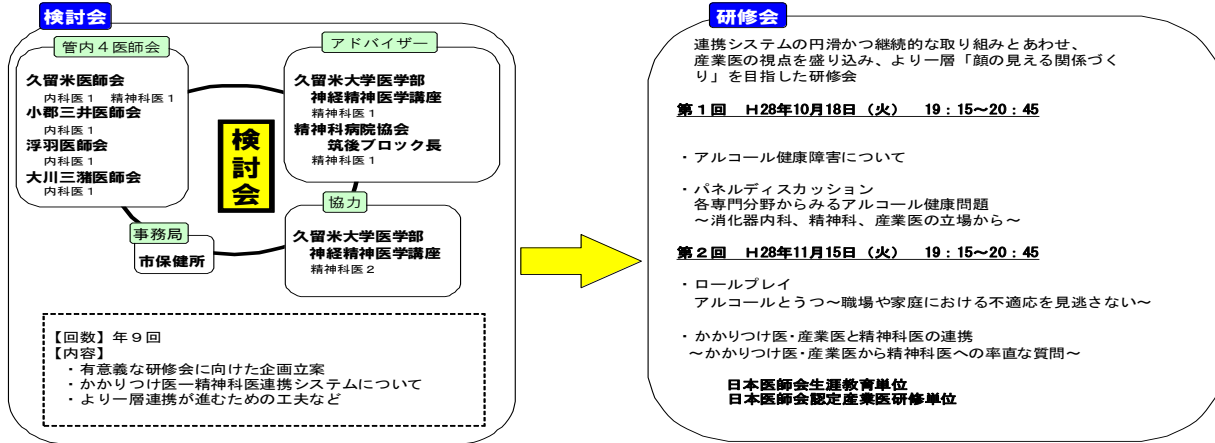
##### ②研修会

かかりつけ医・精神科医の知識・技術の向上、医師同士の連携や顔の見える関係づくりのため、年2回開催。

# 活動成果報告書

ロールプレイや症例検討を取り入れ、より実際の診療に役立つ内容で実施している。研修会の合間に、かかりつけ医と精神科医の顔の見える関係づくりを更に促すため、精神科医の紹介を行う。そのため事前に、保健師等が精神科医療機関を訪問し、研修会の案内をしている。さらに、日本医師会の生涯教育単位や認定産業医研修単位等が取得できるよう考慮している。

<検討会・研修会概念図> ※研修会内容は、平成28年度実施のもの



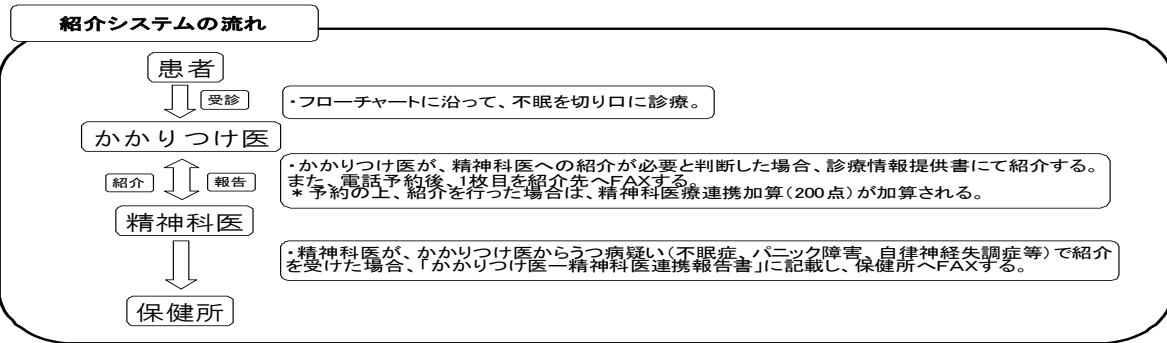
## 2 紹介患者の集計・分析 及び追跡調査

### ① 紹介患者の集計・分析

かかりつけ医からうつ病等の疑いで患者の紹介を受けた管内精神科医療機関は、専用の連携報告書様式（紹介元や診断名等）を利用し、毎月保健所へ報告を提出する。保健所がとりまとめて、検討会で件数を報告し、進捗状況を分析する。

### ② 追跡調査

平成26～27年は、かかりつけ医から精神科医へ紹介された患者の半年後の治療転帰等を把握するため、追跡調査を実施した。



(保健所あて連携報告書様式)

かかりつけ医-精神科医連携報告書(FAX送信票)																													
報告年月日 平成 年 月 日					報告年月日 平成 年 月 日																								
医療機関名																													
<p>① かかりつけ医から紹介を受けた患者について、ご記入ください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>患者ID (※FAX送信後に ご記入ください)</th> <th>紹介元医療機関名/診療科 所在地(市町村名)</th> <th>年齢</th> <th>性別</th> <th>受診の有無</th> <th>診断名</th> <th>ICD-10</th> <th>受診に至った背景 (にある問題(複数可))</th> <th colspan="2">治療転帰及び治療状況</th> </tr> </thead> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>才 男女</td> <td>受診 未受診</td> <td></td> <td></td> <td>                     家庭 勤務                      健康 男女                      経費・生活 学校                      その他 ( )                 </td> <td colspan="2">                     ① 転帰 不変・悪化・軽快・治癒・不明・死亡                      ② 治療状況 治療中(外来・入院) 終了(転院・中断・その他( ))                 </td> </tr> </table>										患者ID (※FAX送信後に ご記入ください)	紹介元医療機関名/診療科 所在地(市町村名)	年齢	性別	受診の有無	診断名	ICD-10	受診に至った背景 (にある問題(複数可))	治療転帰及び治療状況					才 男女	受診 未受診			家庭 勤務 健康 男女 経費・生活 学校 その他 ( )	① 転帰 不変・悪化・軽快・治癒・不明・死亡 ② 治療状況 治療中(外来・入院) 終了(転院・中断・その他( ))	
患者ID (※FAX送信後に ご記入ください)	紹介元医療機関名/診療科 所在地(市町村名)	年齢	性別	受診の有無	診断名	ICD-10	受診に至った背景 (にある問題(複数可))	治療転帰及び治療状況																					
			才 男女	受診 未受診			家庭 勤務 健康 男女 経費・生活 学校 その他 ( )	① 転帰 不変・悪化・軽快・治癒・不明・死亡 ② 治療状況 治療中(外来・入院) 終了(転院・中断・その他( ))																					
<p>② 半年後、治療転帰をご記入ください。</p>																													

<活動成果>

### 1 研修参加状況

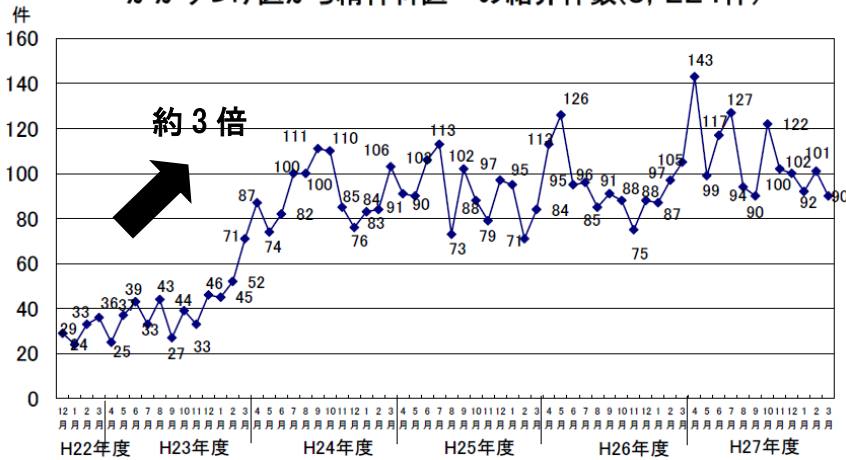
研修会では、活発な意見が交わされ、アンケート結果では、9割以上の医師が「満足した」と回答している。また、かかりつけ医からは「精神科医の顔が見えて良かった。」と好評であった。

研修会でのロールプレイは、医師会の協力でDVDを作成。4医師会所属の全ての医師及び県内医師会へ配布している。県内医師会へも、取り組みを広報し、延べ参加医師数は1,580名(H22～H28)にのぼる。

# 活動成果報告書

## 2 かかりつけ医から精神科医への紹介状況

かかりつけ医から精神科医への紹介件数(5, 224件)



(累計月別紹介件数：平成 22 年 12 月～平成 27 年 3 月)

連携事業を開始して以降、かかりつけ医から精神科医への紹介件数が増加し、現在は、毎月約 100 件の紹介がある。

開始当初より約 3 倍となっており、かかりつけ医と精神科医の連携が進んでいると考えられる。

## 3 紹介患者の半年後の状況

平成 25 年 7 月の検討会で「精神科に紹介した患者の、紹介後の状況を明らかにすることが大切である」等の意見があり、紹介システムの効果の検証を行った。平成 25 年 12 月から平成 26 年 11 月の 1 年間にかかりつけ医から精神科医へ紹介された患者 1,116 人の半年後の追跡調査を実施した。その結果、紹介患者全体で、41% (462 人) が治癒・軽快していた。また、半年後も精神科での外来治療を継続していた患者 43% (480 人) のうち、60% (288 人) は症状が軽快していることが分かった。

さらに、紹介された精神科から転院した患者の転院先をみると、55.1% (129 人) は紹介元であるかかりつけ医への転院となっていた。

## 4 かかりつけ医・精神科医の連携システム構築

かかりつけ医のうつ病の理解を深めるため、医療分野の協力を得ながら、ネットワーク作りに取り組んできた。その結果、検討会・研修会の開催、紹介患者の集計・分析といった「かかりつけ医と精神科医の連携システム」が構築できたと考える。

また保健所では、様々な精神保健活動の一環として、「かかりつけ医・精神科医の連携事業」のほか、心の健康に関する相談をはじめ、ゲートキーパー養成研修等の自殺対策事業に取り組んでいる。「『かかりつけ医』に相談できる」ことは、市民の医療環境の充実、適切な治療に繋がっており、安全安心な地域づくりに貢献していると考えられる。

### ◇今後の計画

このように、活動成果がみえてきたのは、自殺対策に取り組むにあたり、医師会や大学病院の協力があつたこと、および久留米市が「医師のまち」という文化・土壌の中で緩やかな医師間のネットワークがあり、行政が調整機能を担い、本事業を行ったからだと思われる。また、久留米市では、かかりつけ医・精神科医の連携事業を、単年で終わらせることなく、継続実施してきたことが、システム構築の大きな要因となっていると考える。

本事業について、全国から多くの視察者が久留米に来られ、紹介件数の多さや医師の積極的な協力体制に驚かれるとともに、久留米市の取り組みを参考に、同様の事業を試みている自治体もあり、その波及効果は大きいと感じている。

平成 28 年度は、自殺やうつとも関連が深いアルコールをテーマに、久留米圏域外を含め、筑後地区 8 医師会との共催で実施している。事前に、医療機関へアンケート調査を実施し、より地域の実情に即した研修内容となるよう工夫を行った。今後、本連携システムを、うつ病のみならずアルコール問題についても、汎用していきたいと考えている。

今後も、継続して本事業に取り組み、より一層、市民の精神保健の向上や自殺者の減少に寄与できるよう取り組んでいきたい。